

「WHO 統合国際診断面接第 5 版(CIDI 5.0)日本語版の信頼性・妥当性の検証における患者群調査の研究（1）」

分担研究者 中尾智博（九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野 教授）

研究要旨

WHO 統合国際診断面接(Composite International Diagnostic Interview, CIDI)は、WHO が開発、公表している現時点では唯一の、うつ病、不安障害などの比較的頻度の高い精神疾患の診断をつけるための情報を包括的に収集できる精神保健疫学調査用の構造化面接である。本研究では、DSM-5やICD-11の診断基準に沿って開発された第 5 版CIDI (CIDI 5.0) の日本語版（面接者使用版、自己回答版）を開発し、その信頼性と妥当性を少数の精神障害群と健常者群との比較により確認し、CIDI 5.0 により収集された情報からDSM-5、ICD-11 に基づく精神障害を同定する診断アルゴリズムを開発する。特にCIDI5.0 をサーバーからインターネット経由で提供することで、地域の精神保健疫学調査や臨床研究を行う研究者・臨床家が簡便にCIDI5.0を利用できるシステムを構築する。

A. 研究目的

WHO 統合国際診断面接(Composite International Diagnostic Interview, CIDI)は、WHO が開発、公表している現時点では唯一の、うつ病、不安障害などの比較的頻度の高い精神疾患の診断をつけるための情報を包括的に収集できる精神保健疫学調査用の構造化面接である。本研究では、DSM-5 や ICD-11 の診断基準に沿って開発された第 5 版 CIDI (CIDI 5.0) の日本語版（面接者使用版、自己回答版）を開発し、その信頼性と妥当性を少数の精神障害群と健常者群との比較により確認し、CIDI 5.0 により収集された情報から DSM-5、ICD-11 に基づく精神障害を同定する診断アルゴリズムを開発する。特に CIDI5.0 をサーバーからインターネット経由で提供することで、地域の精神保健疫学調査や臨床研究を行う研究者・臨床家が簡便に CIDI5.0 を利用できるシステムを構築する。

B. 研究方法

CIDI 5.0 の日本語版（面接者使用版、自己回答版）を開発し、その信頼性と妥当性を少数の精神障害群【研究 1】と地域住民群【研究 2】との比較により確認する。

【研究 1】英語の CIDI 5.0 を日本語に翻訳し、それをを用いた研修会を実施した後、研修会に参加した面接員によって精神病性障害群、うつ病、双極性障害、不安症群、強迫性障害、心的外傷およびストレス因関連障害群、食行動障害および摂食障害群、アルコール使用障害の 8 疾患群について、CIDI 5.0 日本語版を用いた面接を実施する。

研究対象者は各共同研究機関でリクルートされる。面接は、精神科医や公認心理師等によって対面またはオンラインで行われる。各疾患の参加者が 20 人に達した時点でそれ以上のリクルートを中止する。分担研究者は、強迫性障害 20 名と不安症群若干名の面接を担当する。

【研究 2】 地域住民における妥当性検討

世界精神保健日本調査セカンド（審査番号 10131）に回答した東京近郊の地域住民から性別、年齢を層別化して合計 300 人を選択し、研究説明用紙を郵送で送り、郵送またはメールで同意の得られた人を対象とする。（参加率を約 3 分の 1 と考え、約 100 人の研究参加を見込む）

面接は対面またはオンラインで行う。CIDI 5.0 日本語版、精神科医・臨床心理士によって作成された DSM チェックリストおよび ICD を用いた面接を実施し、CIDI 5.0 による診断の精度を確認する。

C. 研究結果

2020 年 11 月 2 日採択通知され、CIDI5.0 の英語版を日本語に翻訳した。翻訳業者に和訳を依頼した後、複数の研究者によって和訳を確認し必要に応じて修正を行った。主機関（東京大学）で倫理委員会から研究計画の承認を得た。

（2021 年 2 月 8 日）

世界精神保健調査を統括するハーバード大学が主催する面接員トレーニング用のウェビナーを本研究チーム 5 名が受講した。このウェビナーをもとに、日本における面接員トレーニング用の研修プログラムを開発する予定である。面接システム（PC 上で各設問が表示され回答を入力するとインターネット上のサーバーに回答が保存できるもので、対面の面接にも用いられ

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2 実用新案登録

なし

3. その他

なし

るもの）のベータ版の開発を開始した。

分担研究者は、令和 2 年度研究において上記の研究状況について斑会議で情報を共有した。今後、分担研究者は【研究 1】における強迫性障害 20 名と他の疾患若干名の面接を施行予定であり、当施設における倫理申請手続きを進めている。また分担者のチームにおいて 7 名の精神科医が近々面接員トレーニング用ウェビナーを受講予定である。

D. 考察

結果に示したように、強迫性障害をはじめとする患者への CIDI 5.0 日本語版を用いた面接の実施に向け、準備を進めており、順調な進捗状況にある。

E. 結論

分担者は、本研究の進捗情報をチームと共有し、強迫性障害をはじめとする患者への CIDI 5.0 日本語版を用いた面接の実施準備を進めている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし